

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② 自立支援・重度化の防止と認知症ケアの充実を図る
- ③ 介護人材の確保と現場改革
- ④ ご家族・地域との連携
- ⑤ 悔いの残らないターミナルケアの実践

【実践計画】

- ① 感染症や災害への対策強化
  - ・BCPの策定・理解を深めると同時に、それに沿ったマニュアルの作成とシュミレーションの実施
  - ・全ての職員が同じレベルで感染症や災害に対応できるよう、知識を深めるとともに情報共有を行っていく
  - ・基本的な感染症対策を理解・実践し、可能な限り感染症を『もらわない・持ち込まない』よう努める
  - ・施設内の温度・湿度管理、換気、消毒等の実施
  - ・日常生活・業務を行っていくなかで感染や災害に対する危機感を常に持ち、マニュアル作成などに適宜反映させていく
- ② 自立支援・重度化防止と認知症ケアの充実を図る
  - ・アセスメントをしっかりと行い、個別ケアを実践することで自立支援を促す
  - ・個別ケアを実践する事で重度化を防止し、自立支援に繋げていく
  - ・認知症ケアについて定期的な研修会への参加や、意見交換を行っていく
  - ・利用者の立場になり、認知症の方が安心・安全に生活できる環境整備を行う  
利用者一人一人をしっかりと観察し、目の前の方に必要な支援をすぐに提供出来るよう体制を整えていく
  - ・ヒヤリハット報告を有効活用し、危険予測を行うことで出来る限り事故を防ぐ
  - ・介護の基本をしっかりと組み込んだ「ふるさとらしい」支援が出来るようマニュアルを見直し実践していく
  - ・利用者個々の希望・能力・体調面を十分に考慮し、余暇活動の充実を図る  
フロアの利用者全員を対象として行えるレクリエーションはもちろん、利用者個々に応じて提供できる余暇活動を検討し実践する
  - ・ショートステイ利用者は特に在宅での生活を継続できるようADLやIADLを低下させないように支援していく

### ③ 介護人材の育成と確保、現場改革

- ・眠り Scan やインカム等の ICT を効果的に利用することで業務の効率化を図る
- ・職員一人一人が気持ちに余裕を持ち、利用者に関わる事が出来るよう日々の業務を見直していく。令和 4 年度は準夜勤導入に向けてのタイムテーブルの作成など準備をしっかりと行っていく
- ・チームワークを高めるため
  - ① 事業計画(目標)をしっかりと理解し共有する
  - ② 目標達成に向けたビジョンの共有
  - ③ 役割分担
  - ④ メンバー間のコミュニケーションの円滑化
  - ⑤ 情報の共有以上 5 点を実践していく

- ・介護技術面、処遇面、接遇面でフロア職員の見本となるようなリーダーの育成

### ④ ご家族・地域との連携

- ・その時々状況に応じ、利用者と家族が交流出来るよう対応方法を検討する(オンライン面会・窓越し面会等)
- ・利用者の様子を各種 SNS(Instagram・YouTube・Facebook・ブログ)を利用し発信する
- ・コロナ禍でも家族との信頼関係を築くため、相手に応じた連絡方法をしっかりと把握しコミュニケーションをとっていく
- ・情報をしっかりと共有することで家族と職員が同じ気持ちで利用者のケアにあたる
- ・ショート利用者に関して家族はもちろん、担当ケアマネジャー、関係サービス事業所と連携を図り、情報共有する
- ・近隣と交流し辛い状況となっているが、感染状況も踏まえながら出来ることを模索し、情報を発信し地域に応援して頂ける施設を目指す
- ・災害時福祉避難所としての、マニュアルを作成し、有事に備える

### ⑤ 悔いの残らないターミナルケアの実践

- ・可能な限り利用者・家族の望む最期を迎えられるよう、また、その方らしい最期を迎えられるよう、定期的に意向確認を行っていく
- ・利用者に気持ちよく生活して頂けるよう、身体面の清潔を保つことはもちろん家族と相談しながら居室環境も整えていく
- ・最期を迎えて頂くに際し、利用者・家族にしっかりと寄り添い「ふるさとでよかった」と思っていただけのケアを提供する

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② 丁寧なケアを心掛け個別ケアで利用者の重度化を防止する
- ③ 職員の介護技術向上とキャリア構築
- ④ ご家族や地域住民の方に愛される施設づくり
- ⑤ チームで行う看取り介護の実践

【実践計画】

①感染症や災害への対策強化

- ・「利用者の命を預かっている」という認識を持って感染症予防対策を実施。施設内に感染症を『もらわない・持ち込まない』よう努める
- ・勉強会等で感染症マニュアル、BCPへの理解を深める。作成済みマニュアルを随時見直す。職員共通の認識を持った上でシュミレーションを定期的実施し、有事の際の実行力を高める
- ・施設内の温度・湿度管理、換気、消毒など今までより小まめに実施する

②丁寧なケア心がけ個別ケアで重度化を防止する

- ・利用者一人ひとりがその人らしく施設生活を送って頂くために、個々の疾患や生活歴等の把握に努める
- ・フロア内の情報伝達・共有を活発に行い、担当利用者の事はその担当職員が一番知っているという自信を持ち、担当利用者のケアの向上に努める
- ・言葉遣いや接遇態度等、丁寧な関わりと気持ちの込もったケアを心掛け、利用者が安心して楽しい日々を過ごせる環境を作る
- ・利用者の身体状況を把握し、統一された基準で3大介護を実施する
- ・利用者の残存機能向上、また潤いのある生活を送って頂けるよう、週4回の運動機能向上レク、週3回の認知機能向上レク、レベルに合わせた個別レク（ボードゲーム、手指を使用したゲーム）を実施する
- ・医療的ケアが必要な利用者に対し、いかなる時も落ち着いた行動ができるよう必要な知識を深める
- ・ショートステイ利用者には自宅生活に近い環境で過ごして頂き、「また来たい」と思って頂けるよう、たとえ短い期間であっても心の込もった対応を心掛け、丁寧に接する

③職員介護技術向上とキャリアの構築

- ・社会人としての資質5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の備わった職員を育

成し、職員同士が切磋琢磨できる職場環境を作る

- ・三大介護の技術を高め、利用者一人一人の日々の身体の状態を把握し、変化に気づける目を養う
- ・眠りスキャン、インカムなどの ICT 機器を活用することで業務の効率化を図る。併せて、既存の業務内容・タイムスケジュールを見直しを図り、生まれた余剰時間を利用者のケアに充当させる
- ・ICT 機器を活用することで得られたデータを多職種で共有、活用する事で、利用者毎の生活の質を高めるケアや支援に繋げていく
- ・リーダーとなる職員の人材育成に注力する

#### ④ご家族や地域住民の方に愛される施設づくり

- ・利用者の様子を各種 SNS ツール（Instagram・YouTube・Facebook・ブログ等）を活用し、家族や地域へ発信する
- ・感染禍であっても利用者と家族が交流する機会を大切にする。オンライン面会、窓越し面会等その時の状況に応じて臨機応変に対応していく
- ・コロナ禍でも家族との信頼関係が希薄にならないよう、その方に応じた連絡方法を把握し、密にコミュニケーションを取る事を心掛ける
- ・ショートステイ利用者にも、利用中の様子や急な体調の変化など小まめにご家族や担当ケアマネへの報告を行い、安心して利用して頂けるように努める
- ・セーフネットとしての役割を引き続き果たしていくことで地域住民の方に安心して頂ける施設を目指す

#### ⑤チームで行う看取り介護の実践

- ・利用者が最期を迎えるその時まで安寧な生活を送って頂く為に居住環境（温度、湿度、音、明るさ等）に気を配る
- ・利用者・家族の意向に沿った看取り支援ができるよう、定期的に意向確認を行い、現状とニーズに齟齬が無いか確認する。得られた情報を職員間で共有・連携を図る
- ・最期を迎えて頂くにあたり利用者・家族としっかり寄り添い「ふるさとでよかった」と思ってもらえるケアを提供する
- ・施設での看取りが終了すれば、職員間で振り返る機会を持つ。振り返りで得た情報を次の支援に活用する